

九州北部豪雨の発災から復興 ～今だからできる学びのかたち～

最終報告

被災地を写真でつなぐ実行委員会

北九州市立大学4年 須磨 航

中間報告会の際に報告させていただいた内容

【写真展全国キャラバン活動の実施】

- ①宇波西神社(福井) うきはベース写真展～祭ってなんですか？～
- ②北九州市立総合農事センター(福岡)
- ③北九州市立大学(福岡) うきはベース写真展～あれから2年～
- ④徳島文理大学(徳島) うきはベース写真展in徳島文理大学

【防災研修プログラムの実施】

- ⑤防災研修プログラム 6月8日・9日、7月6日の3日間

【その他】

- ⑥災害を考える3日間

九州北部豪雨・西日本豪雨追悼イベント～あの日、あの時を忘れない～ 実施

- ⑦作ってみよう！～朝倉の食材を使って～ 作成

【講演活動】

- ⑧⑨大学内授業 2回
- ⑩ボランティア講座(八幡西区社協・ボランティア連絡協議会)
- ⑪人権市民講座(北九州市熊西市民センター)

中間報告会後に実施した内容

赤 = 九州北部豪雨関連活動
青 = 台風第19号(長野県)関連活動
緑 = 赤・青、両者をまたいだ活動

《写真展全国キャラバン活動》

- ①うきはベース写真展@北九州市内小学校(10月18日～12月20日)
- ②うきはベース写真展@北九州市民ふれあいフェスティバル(10月18日～10月27日)
- ③長野県における災害支援活動写真展
@到津校区防災訓練(11月30日 協力出展)
- ④うきはベース写真展@まちクエスト(2月8日 協力出展)

《その他》

- ⑤令和元年台風第19号による長野県の災害救援活動(10月21日～現在)
- ⑥九州北部豪雨・長野市における災害救援活動緊急報告会
@北九州市社会福祉大会(10月27日)
- ⑦防災交流会@山口県立大学(12月23日)
- ⑧初詣de被災地復興応援@福井県宇波西神社(12月31日～1月4日)
- ⑨授業・講演への登壇など 3回

計 20+αの実践

中間報告会を終えて 実行委員の皆様のコメントシートから

写真展

防災
研修

組織運営・
体制など

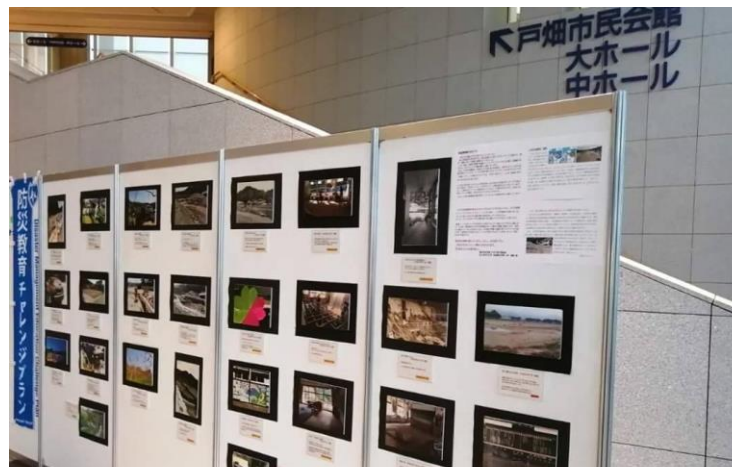
- ①写真展の様子を紹介してほしい
- ②写真と〇〇(例:写真展と物産販売のように)→⑫のSNS活用と同
- ③写真とともに、つぶやきを。その写真の背景に何があったのかを。
- ④写真展を行ってきたことによる成果は?それを客観的に分かる評価を。参加者と実施者のアンケートを。
- ⑤リアル避難ゲームの参加者は何人?→19人の参加者+補助スタッフ16人で行いました。
- ⑥温泉入浴の目的が分からなかった
- ⑦写真展と防災研修プログラムの繋がりを明確にしてほしい。新しい概念につながるのでは?

- ⑧他大学・大学内の朝倉市出身者との連携を考えてみては?
- ⑨次世代の育成
- ⑩何を語り継いでいきたい?何を残していく?何であれば続けることができる?
- ⑪何を意識したイベントなのか、その取り組みにどんな意味を持つのかを意識すべき
- ⑫SNSの利用
- ⑬活動の広がりを持たせよう・複数の方針を用意しては?
- ⑭水害はまた来るとの危機感が弱い
- ⑮実行委員会の体制を呈示してほしい

写真展全国キャラバン活動の実践から(下半期※①)



①北九州市内の小学校での展示↑



←②市民ふれあいフェスティバルでの展示



↓④まちクエストにおける展示



③長野県における災害支援活動写真展↑

写真展におけるタイトルカードの改善

被災直後の民家

被災直後

九州北部豪雨
たくさんの家
家を想像する

被災者の方
被災家屋の

実行委員の方
のアドバイス
(※③)をもと
に、学生が感
じたこと等を記
入

ひさいちよくご みんか さつえい
被災直後の民家（平成29年7月 撮影）

きゅうしゅうほくぶ ごう はっさいご ちいき
九州北部豪雨発災後、地域に入ると、
たくさんの家々が、土砂に埋まっていた。ここにあったはずの
家を想像することもできないほどであった。

ひさいしゃ ひっし
被災者の方、ボランティアの方が、必死に土砂をかき出し、
被災した家の片付けをする景色が広がっていた。

あきゅうせいき
亜急性期（災害がおこった後、すぐ。2～3週間）

小学生にも
分かる
写真展を



北九州市内小学校における写真展 来場者アンケートより

- 自然災害はいつおきるか分からないと知った。
- さいがいが起きると全部が巻き込まれる。
- こんなに大変だったのかと写真を見て知りました。
- 教室の写真など身近な部分もあってよかったと思う。
- 百聞は一見にしかずの通り、写真を拝見すると胸に迫るものがありました。
- 学生さん方の取り組みが素晴らしい。
- 家庭でも災害について備えについても話していきたいと思います。
- TVや新聞では断片的で、どこか他人事でした。
- よい発信をありがとう。時系列が見やすかった。
- 見ていて涙が出そうになりました。
- 自分が住んでいるところは、被害にあってないしという「関係ない」の気持ちがあった。まずはできることから。
- 現地の現状、復興半ばであることが分かりました。他県から来ましたが、
北九州は“災害のない街”を自慢するところがあり、被災地に寄り添えるほうが少ない印象です。
- 目をそらさずに、しっかりと私たちが考えたい

北九州市内小学校における写真展 来場者アンケートより

《アドバイス》

- もう少し、児童目線のものがあったと思う。
- 字をもう少し大きくしたらもっと見やすいと思います。

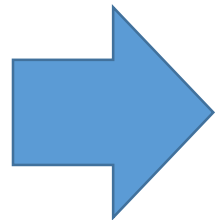
《要望》

- 写真を教材として、子どもたちにあなたの言葉で語る場を創ってほしい。
- 自分たちの身近な場所の被害の様子を伝える写真は自分たちに重なるので、これからも続けてほしい。
- 学生ボランティアだからできることだと思います。続けて！

北九州市内小学校における写真展 6年児童アンケートより

これらの感想から(※④)

- 災害ボランティアを募り、九州北部豪雨の風化を防止することから始めた写真展であったものの、現在は災害を学ぶ1つのツールとなっている。
- 子どもたちが感じ取った災害の姿を、子どもたちによって家庭にて話すきっかけを創ることができた。
- 継続的に関わってきたことで、地域の復興に歩む姿を発信することができ、被災から復興までを伝えることができた。



写真というツールを使うことで、子ども～大人まで、**幅広い年代層**に災害について発信することができた。また、「災害のない街」言われる北九州市において災害について発信することができた他、**写真展キット等**を通して、写真展を当団体で**行うのではなく、サポートする**体制を構築することができた。



「防災研修プログラム」を 振り返って



リアル避難ゲーム

北九州市内の閉園中の
プールを貸切にいただき、
LINE@を使った避難ゲームを開催。

LINEや館内設備を利用し、
どこに、どのタイミングで、どのルートを使
って逃げるのか等を考えて避難する
水害を想定したゲームを行った。

使用したLINE@のメッセージ例→



15:00 B区氾濫危険水位を超える
【NHK】

ただ今、B区が、避難勧告の目安となる河川氾濫危険水位に到達しました。堤防が決壊し、浸水する可能性があります。防災無線の情報などを確認し、適切な防災行動をとるよう
に心がけてください。

15:00



15:02 B区避難勧告発令
【災害対策本部】

北九州市災害対策本部です。9日15時に、B区が氾濫危険水位に到達したことに伴い、避難勧告を発令します。

それに伴い、避難所を開設しました。避難場所は、「B区展望台」です。

土砂災害や河川の氾濫に注意して、命を守る行動をとってください。

↓
15:02



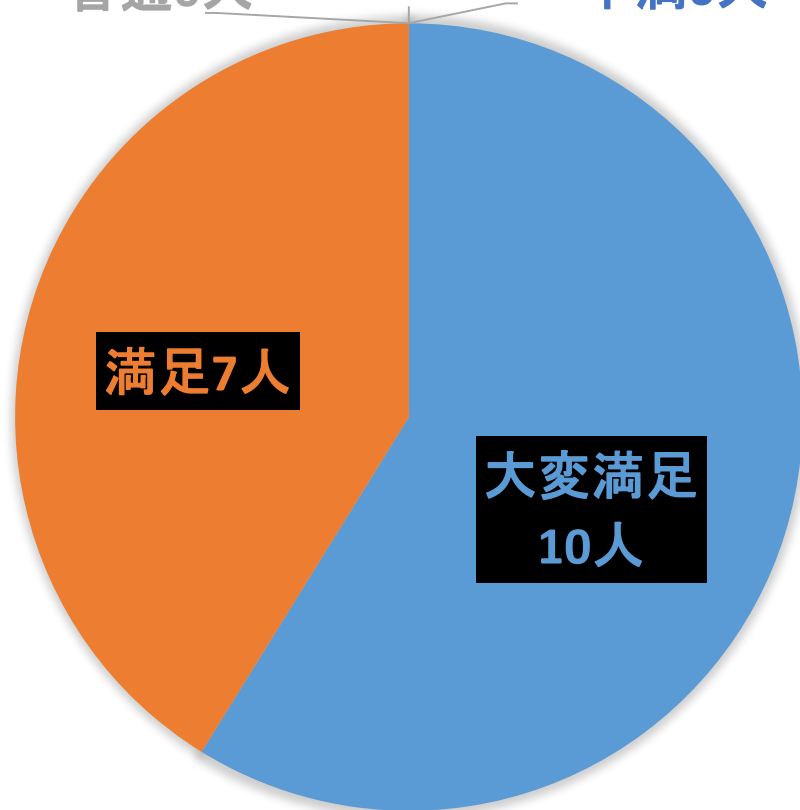
リアル避難ゲームの様子



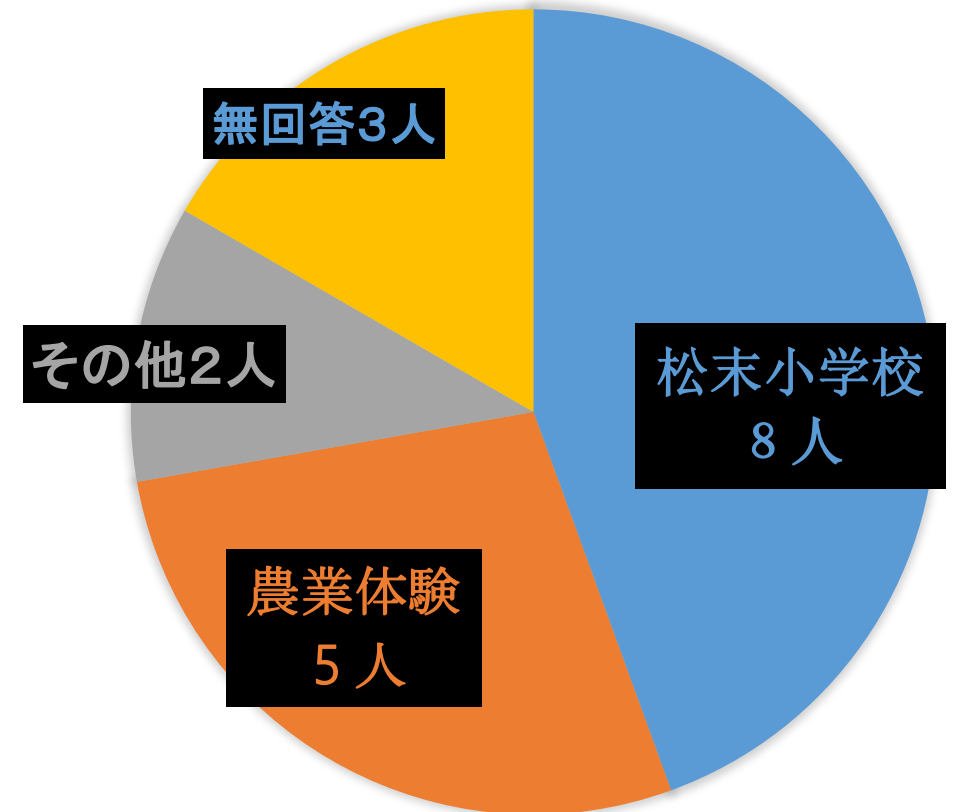
防災研修プログラムアンケート結果（1日目）

1日目満足度（N=17）

普通0人 やや不満0人 不満0人

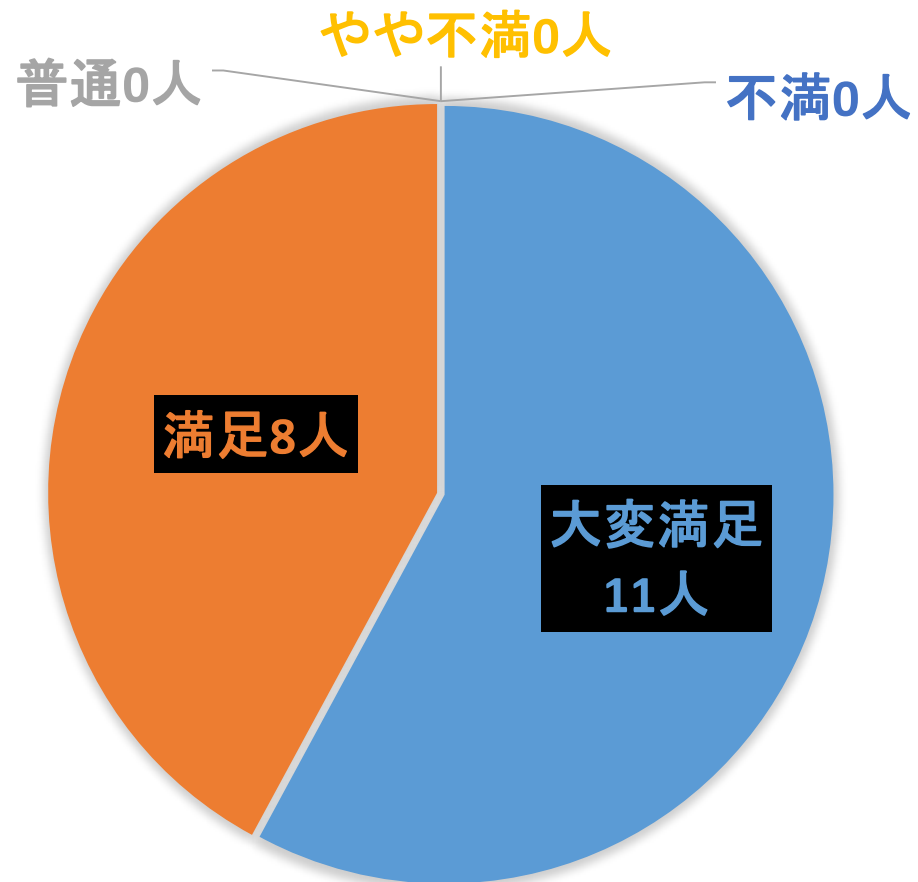


印象に残っているプログラム

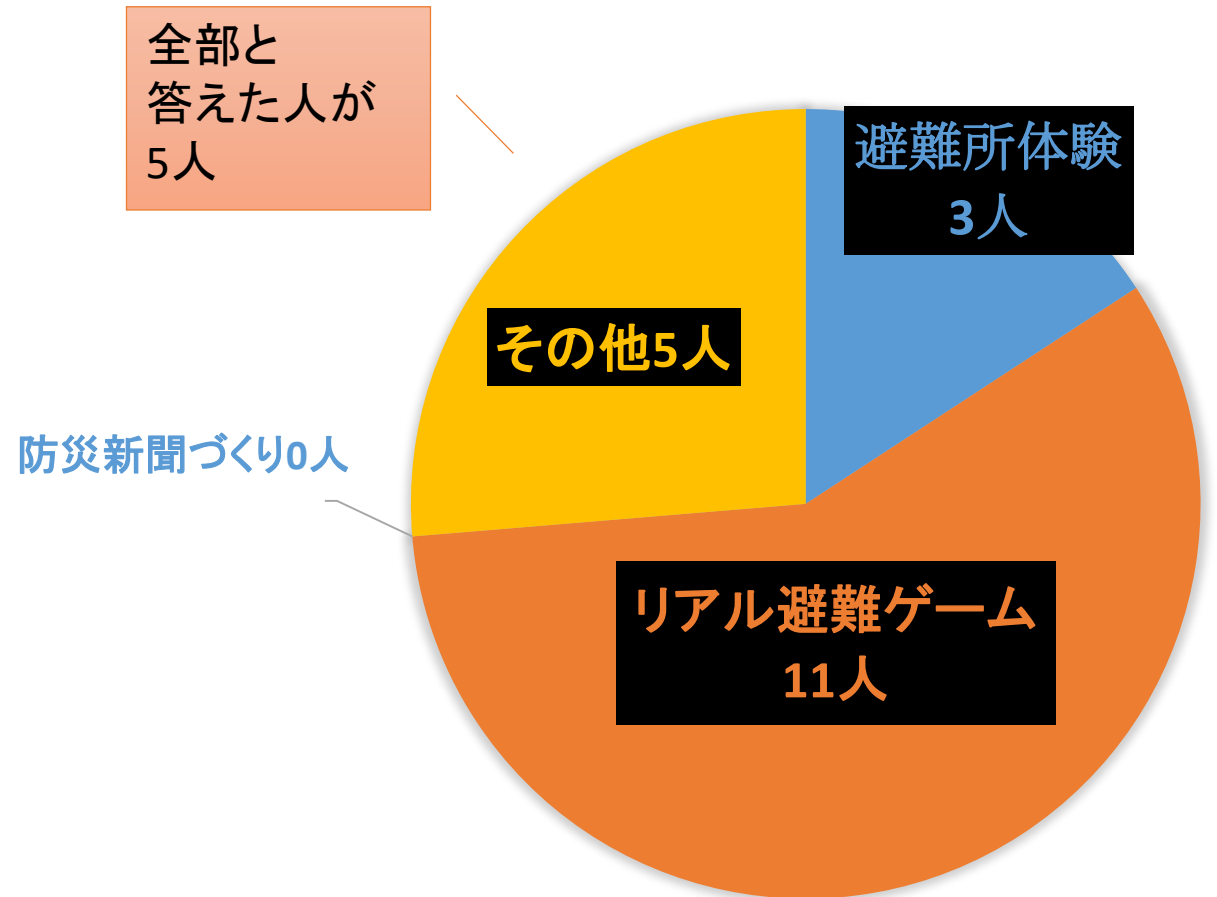


防災研修プログラムアンケート結果（2日目）

2日目満足度（N=19）



印象に残っているプログラム



Q. 1日目の満足度の理由を教えてください。

《子どもたちからの声》

- ・災害にあった所を実際に見てみたり、体験をしたりいろいろなことができたから。
- ・被害のことについてよく分かってふっこうさせよう！と思う気持ちがあるということがすごいと思ったから。
- ・防災について考えることができた
- ・そばがおいしかった・カブトムシがとれた

《保護者からの声》

- ・被災地の方の声を聞くことができたほかではできない体験ができた。
- ・現地の人のお話を直接聞くことができた。
- ・はじめて“被災地”と呼ばれる現場におもむいて現地の方とふれあえた
- ・普段できない農業が非常によかった
- ・災害の怖さを思いだした。
- ・温泉でのおかみさんのお話を聞いたこと
- ・以前は聞けなかった雨量などのお話を聞いた

Q. 1日目の印象に残っている場面の理由を教えてください。

《松末小学校》

- ・災害の大きさが分かったから ・さいがいの時に流れた水の量などを教えてくれたから
- ・自分の小学校も山の近くにあるので、もしこのようなことがあったらどのようなひがいが出るのかよく分かったから
- ・復旧しているところとそうでない所を直接見ることができた
- ・まだ整備の計画も立っていないという現実
- ・被災前の写真と今の状況とがあまりにも違ったことに驚きと悲しみを感じた。
- ・家が実はここにあったこと、流されてあとかたもないけれど、ここに住んでいた方々がいたという話にはさすがに涙が出ました。小学校は地域の中心で財産なのだと思います。

《杷木復興支援ベース(現:杷木ベース)農業体験》

- ・作物を育てるのが好きだから ・ワラをまいたのがおもしろかった ・からだを動かすこと
- ・地域の方が戻って来られる場所を皆で作っていること、力を合わせ作物を作っておられる事を知るのが出来た。

《筑後川温泉ふくせんか》

- ・おふろにみんなといっしょにはいれたから
- ・おかみさんのお話。今の生活が出来ていることの大切さ、できる事を少しでもやる事大切さを学べた。

Q. 1日目のプログラムを通して感じたことを教えてください。

《子どもたちからの声》

- ・さいがいはいつおこるかわからない、こわいものなのだと改めて感じました。
- ・ひなんせいかつがよく分かった！
- ・(災害に)ならないでほしい
- ・もしさいがいがあったときは朝倉のことを考えながら、思いだしながらひなんしたいと感じた。
- ・災害のこわさやもしも災害があったら自分たちができること。

《保護者からの声》

- ・出来ることを出来る形でボランティアをしていく事の大切さ
- ・今現状の生活ができていることの大切さ
- ・被災後の支援は長く続けていかなければいけないと感じた
- ・やっぱりみなさんステキな方ばかり朝倉が好きになります。
- ・今の生活が当たり前ではないと認識しないといけないことを教えてもらった。
- ・観光客ではなかなか踏み込めない場所に入れた。
自分事として考える、自分にできることで少しでも支援に繋げる。それが大事と思わされました。
- ・もとの生活に完全に戻ることはできない。
新しい生活に気持ちをきりかえて、すすんでいくことのしんどさを感じました。
- ・まだ被災が続いている

Q. 1日目を行ってみて、
災害に備えて今自分に出来ること、しておきたいことはなんですか

《子どもたちの声》

- ・災害リュックの見直しや災害がおこったときのことを**家族でよく話し合う**
- ・いつ起こるか分からないけど、その時のためにしっかり持ち物をまとめときたい
- ・**いつでも避難できる様準備**しておく ・防災グッズをそなえる
- ・いろいろできるようになる
- ・災害がおこったところの**ボランティア**として活動したい
- ・**家の散らかっているせいり** ・ごはんをたくさん食べておく

《保護者からの声》

- ・インターネットを使って情報を集めたい ・**災害別の避難場所**を確認します
- ・知識を身につけ、万一の時に適切な行動をとれるようにしたい
- ・わが身を守る
- ・**他人事ではない**と危機意識を忘れないこと
- ・何が何でも生き抜く力を身につけさせるため、常に自分の頭で考えさせる、くせをつけさせる
- ・備蓄の補強、室内の減災実施、災害時のクッキング練習

Q. 2日目・全体の満足度の理由を教えてください。

《子どもたちの声》

- ・初めての体験だったから。
- ・リアル避難ゲームがよかった。 ・プールに行ってひなんしたから。
- ・ますえ小学校にいたり、ひなんくんれんのゲームをしたから。
- ・リアルひなんゲームがとてもおもしろかった。
- ・プールの避難くんれんでどこにどうにげればよいか学べたから。
- ・どんな時にどこにどう逃げればいいのか学べたから。

《保護者の声》

- ・個人ではできない研修ならではの経験ができました。
- ・初めての体験。 ・実践的でよかった。 ・いろいろな工夫がしてあった。
- ・皆が感じたことを聞いたこと、情報を正確に判断、相談して行動することを学んだ。
- ・子どもがとても楽しそうにしていた。
- ・リアルなひなん体験をしてみて、情報を整理しながら惑わされず、自分の居場所から一番安全な場所を探すことが必要と分かった。

Q. 2日目の印象に残っている場面の理由を教えてください。

《リアル避難ゲーム》

- ・ひなんの仕方がわかったから ・指示を判断して走りまわったこと
- ・どこにいて、どうすればよいのか考えることができてよかった。
- ・リアルすぎておもしろい ・SNSで流れるじょうほうをもとに避難したから
- ・避難のタイミングと状況により変わるが、それを実感することができた。
- ・判断を誤ったので、勉強になった。 ・子どもたちが“避難”をリアルに考える機会になった。
- ・地形により災害情報を聞いても、動くべきかどうか考えた。

《避難所体験宿泊》

- ・このような体験ができないから、じっさいにとまれて楽しかったから。 ・不便さが分かった
- ・段ボールベッドに寝るのが初めてだった
- ・避難所という場所が非日常だということ。
物資がほしくて、焦る気持ち他人と一緒に過ごすストレスなど感じるがありました。

《防災新聞作成》

- ・考えを整理できた

Q.2日目・全体のプログラムを通して、感じたことを教えてください。

《子どもたちの声》

- ・災害について知ることができて、自分の生活に活かしたい。
- ・ひなんする場所も、家族ではなし合っで決めようと思った。
- ・いつさいがいがおきてもおかしくないこと
- ・ひなんじょでねて、カードをもって、いろいろなものを買っていき、「いろいろなものがほしいな」と思っているひとがたくさんいるなと感じた。
- ・ひなんがむずかしかった

《保護者の声》

- ・新聞づくりをすることで、昨日の学びを振り返ることができました。
- ・初めての体験が多くて、驚いたり知れたりできた。
- ・普段から家族と話し合う事の大切さ
- ・他人事しか思っでなかつた。防災が身近なものになった。
- ・避難の難しさ
- ・避難の際、かなり迷う
- ・判断が難しいと感じた

Q. 2日目・全体を行ってみて、 災害に備えて今自分にできること、していきたいことは何ですか？

《子どもたちの声》

- ・みんなをたすけること
- ・ひなんルートをかくにんしておく！
- ・準備する
- ・ひなんじょにいる人をたすける
- ・家のあぶないところをなおす。SNSじょうほうをしっかりものにして、ひなんしていきたい
- ・部屋にある、さい害がおきたらあぶないものについて考えること
- ・災害について家族で詳しく話し合ったり、災害になった時、何が必要になるか、など

《保護者の声》

- ・日ごろから避難訓練を意識する。
- ・情報収集が必要と感じた。
- ・普段から避難場所を規定しておくこと
- ・家族みんなで考える
- ・防災グッズを用意したり、家の中の危険な所を改善したりしよう
- ・予備の食べ物を買っておく、買っていく。

Q. 今後やってみたいこと、
こんな企画があればいいなと思うことはなんですか？

- 避難所体験No.2
- リアル避難ゲームを2本したい！
- 個人メールでも、リアル避難ゲームができたらいいな・・・
- ちがう人ともゲームしたい！
- 防災・災害のスタンプラリー、めいろ、防災クッキングをしてみたい！
- 防災リュックを作りたい！（中に何を入れればよいか等）
- ひじょう食を作ってみたい！

防災研修プログラムを振り返って

災害新聞

川をはさんで別世界だ。雨が集中的にふり続けたり、かみなりもゴロゴロ鳴り続けた。温泉水は、ろくろでまろ見えだった。災害がおきると水が出なくなってしまう。心くせんに水を求める人がおしよせて来た。そして、温泉の水は、のめる!!

令和元年 6月9日(日)

プールも流されていた。一番すごかったのはアムリア(特別教室)でゆかや木が流されていった。教室に入ってきた水やどしどしは私たちの身長より高かった。どしどし200万リットル、水が440万リットルも学校に流れて来た。出校の時計がだいたい3時43分まで

ふくせんかについて

旧松末小学校について

- ※⑥温泉入浴の目的
- ・「被災地」ではなく、「観光地」としての魅力の発信。
 - ・温泉から見える筑後川。
 - ・女将さんの経験談から考える。
 - ・参加者同士での交流を図る。

ぼうせい

もうふ

親子二人でねました

ベッドの1/2の様子

こうし状にくみたられている。人がたったりしても、かなりしょうぶでこわれません。スパース(じょうたの)もありきられます。にんぷさんお年寄りは大変助かるとおもいます。

心くせんか

川から水があふれ、山がくずれました。そして、人せんか。人がおちをくたせたく。ろにはいらせたく。タイムリーにいかわれて大い。いとした言はなして。ました。

避難所体験をしてみよう

他人と一夜をひとの部屋をみる。限られたアイテムを誰かより使う。避難所の中で、社会を大きく創ると。リーダーの指示に取らね。できることをできる人がすすんでやる。

子供達も積極的にお手伝いをして。色んな人と話して。防災も学びました。社会を上手に避難所で作っていく事。色々と学びました。農業の大変さも身に染みて感じました。

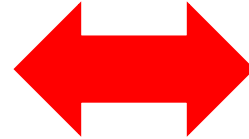
Thank You!!

Scanned with CamScanner

写真展から防災研修プログラムへ(※⑦)


写真展

来ることによって終わってしまう。
主に過去を伝えることができる。



防災研修

来る人が限られる。
今を伝えることができる。



過去を、写真で伝える。
今を、現場で伝える。
他人事を自分事へ。

⑤ 台風第19号災害支援活動

- 長野市災害ボランティアセンター（高台・りんごサテライト）の運営補助
- 高大生の連携を図る「信州高大生連携復興支援チーム」を設立
- 高校生による写真展開催サポート
- 信州ベース開設（2月10日～）
- 高大生による写真洗浄拠点を開設予定（2月16日～）



7 山口県立大学学生との防災交流会



7 山口県立大学学生との防災交流会を終え

※⑧他大学との連携

- 交流会により、北九州市立大学外の学生との繋がりをつくることができた。
- 社会福祉学科の学生であったこともあり、災害時の福祉的な展開について、話すことができた。
- この会の後、災害について興味のある学生とプライベート等でも、つながることができ、平時からの繋がりがや団体としての協力関係を創ることができた。

※⑧、⑨大学内の朝倉市出身者

- 7月5日～7日に開催した追悼イベントにて、朝倉市出身の学生とつながることができた。
- また、ボランティアを行うなかで、北九州市立大学入学予定の高校3年生ともつながることができ、長野県においても活動する予定。



今年度の実践を終えて(※⑩～⑭)

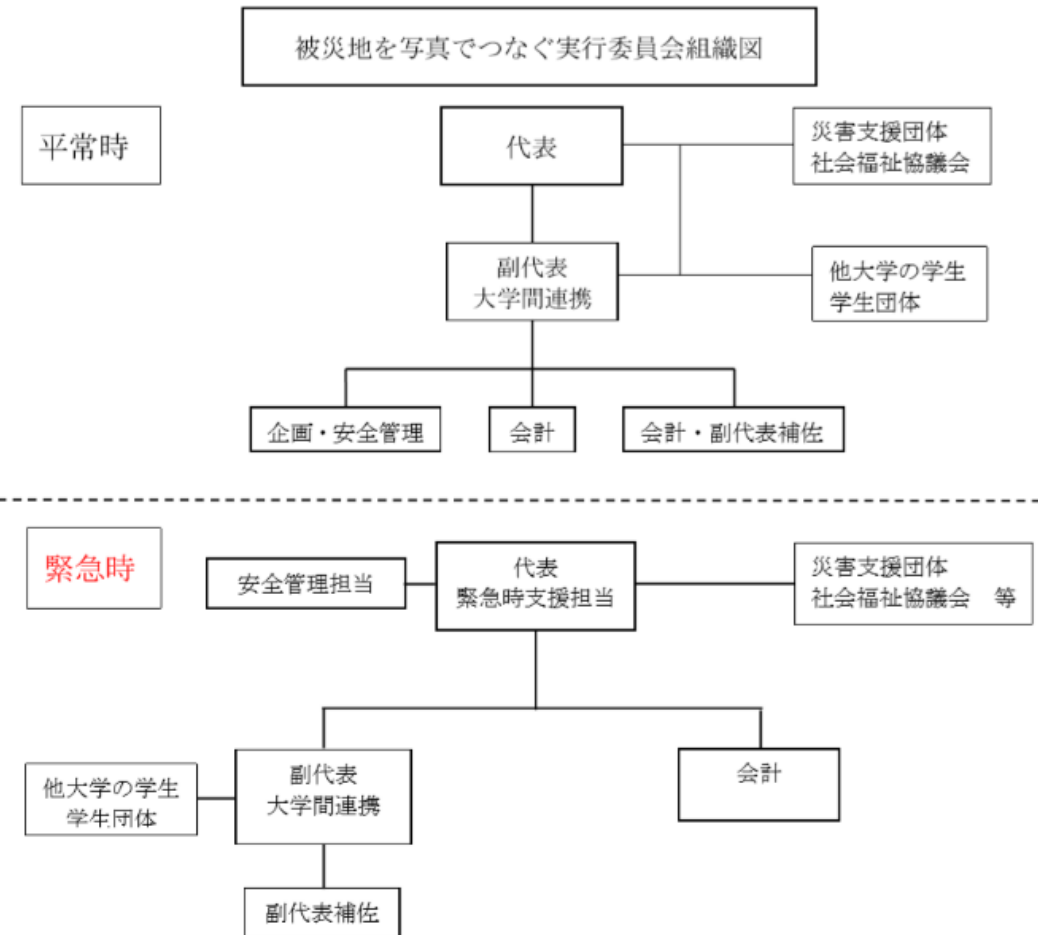
- 何を語り継ぐ？
- 活動の広がり、SNSの活用
- 今後の方針
- 私たちが目指す防災教育
「恐怖」だけではない、防災教育。

※⑭実行委員会の体制 を呈示してほしい。

構成員：5名

大学での学年、テスト期間等において、
プランを実行できる
メンバーに差が生まれる
こともある。

・名前	ふりがな	役職	所属
・須磨 航	すま わたる	代表 (兼緊急時支援担当)	北九州市立大学 学生
・妹尾 多恵	せのお たえ	副代表 (兼大学間連携担当)	北九州市立大学 学生
・仲田 匠	なかた たくみ	副代表補佐	北九州市立大学 学生
・池田 翔太	いけだ しょうた	企画	北九州市立大学 学生
・平山 雅也	ひらやま まさや	会計・安全管理担当	千葉工業大学 学生



あなたにできることが、ここにある。

復興への特別授業

とき: 2月16日(日) 14:00~18:30

ところ: パーキング24(長野市大字南長野新田町1122-1)

1 限 目	<p>高校生・大学生による 写真洗浄ボランティア をスタートします！</p> <p>今回は、プレ洗浄会 実際に写真を救いましょう。</p> <p>時間: 14時00分~17時00分 講師: 「あさくらフォトプロジェクト」末吉弘聖君等</p>
2 限 目	<p>テーマ: 「被災した子どもたちの支援をするために 知っておきたいこと」</p> <p>時間: 17時30分~18時30分 講師: 長野市子どもにやさしいまちフォーラム 小野道子氏</p> <p>みんなでワイワイ話し合いながら、 子どもの居場所づくりや子どもたちへの関わりかた について考えましょう！</p>



九州北部豪雨(福岡県朝倉市)の被災地において
当時1年生の高校生が自分たちにできることを考え、
設立。高校生が主体となり、7969枚の写真を救った。



主催: 信州高大連携復興支援チーム
長野県NPOセンター
共催: 被災地を写真でつなぐ実行委員会
協力: あさくらフォトプロジェクト(福岡県朝倉市)
被災写真救済ネットワーク(岩手県陸前高田市)
あらいぐま岡山(岡山県倉敷市)
問い合わせ: 026-269-0015(長野県NPOセンター)

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

現場をまず把握することから、防災につながる。
長野県でも災害救援活動を継続していきます。

「信州ベース」募集要項 長野県では、台風19号災害からの 復興に向けて、 あなたの力を必要としています。

- 開設期間
 - 第1次募集: 2020年2月10日(月)~2020年2月27日(木)までの日程
 - ※第2次募集(3月)は2月上旬にFacebookページにて、ご案内させていただきます。
 - 活動内容
 - ①農業支援(被災農家の畑の泥出し等)
 - ②被災家屋の泥出し
 - ③写真洗浄ボランティア
 - ④学習支援ボランティア(火・木・土のみ)
 - 対象・定員
 - 対象: 全国の大学生・院生・大学教職員など
 - 定員: 1日20名程度
 - ※10名以上の団体での利用は
お電話にてご相談ください。
- ※時期によっては、サロン活動や
子どもの遊び場支援などの活動もあります。



農業支援ボランティア



写真洗浄ボランティア



学習支援ボランティア

信州ベースとは
2019年10月に発生した台風19号の被災地において、今求められているニーズに対して、学生ができることを考え、災害復興支援を行うための宿泊・情報交換・情報発信のための拠点の施設です。災害ボランティア活動を行うとともに、防災を考えます。

運営: 信州ベース運営委員会
被災地を写真でつなぐ実行委員会
長野県在住の学生有志で構成しています。

f @shinsyubase



協力・連携団体: 長野県NPOセンター・信州高大連携復興支援チーム・日本笑顔プロジェクト
本事業は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」・日本財団の助成をいただき運営しています。



ご清聴
ありがとうございました。

